

3年2組

羊のよつばちゃんとの3年目の暮らし ～わたしと、よつばと、ふたばと～



はじめまして、よろしくね、小さなふたばちゃん

4月9日、「よつばちゃんのおしりから、黄色い膜みたいなものが出てきている！！」その一報を聞き、小屋に行ってみると、痛みに耐えるように動き回るよつばちゃんの姿がありました。「痛いよね」、「頑張れ頑張れ」と声をかけながら応援する子、じっと静かに見つめる子、出産が終わった後に大好きな草をたくさん食べさせてあげたいと草取りを始める子、様々な思いで見つめる視線の先で、待ちに待った瞬間が訪れました。産道に引っかかった前足を獣医の佐藤先生がつかみ、グッと引っ張り出されたのは小さな小さな雌の赤ちゃん。出産を終えたばかりのよつばちゃんは、すぐさま体を舐め始めます。疲れているはずなのに、誰から教わったわけではないのに、赤ちゃんにすぐ寄り添おうとする姿は、お母さんとしてのよつばちゃんの姿でした。まだ目を閉じたままの赤ちゃんは、



おっぱいに近づけると元気に初乳を飲みました。生まれて間もないのに、自分の足で何度も立ち上がろうとしていました。小さくて甲高い鳴き声で鳴きました。交尾のあった日から147日目。出産の目安としていた150日目よりも3日早い出産でした。「お腹に赤ちゃんは本当にいるのかな。でも、いる可能性が高いからお世話をがんばるぞ」と、エサの管理に気を付けたり、安全なお散歩を続けたりしてきた子どもたちは大喜びでした。そして、出産を頑張るよつばの姿、懸命に生きようとする小さな赤ちゃんの姿から、これからの2頭との暮らしに対する思いを一層高めているように感じられました。赤ちゃんの名前はふたばちゃん。芽を出した双葉のように、よつばちゃんのように、これからすくすく大きくなってほしい。そんな子どもたちの願いが込められた名前です。

やりたいことがたくさん

ふたばちゃんもすくすくと育ち、一緒に外に出てお散歩ができるようになりました。お乳が中心だったご飯も、よつばちゃんのマネをしながら、美味しそうに草を食べるようになってきました。「ふたばちゃんって、よつばちゃんと同じでクローバーをよく食べるけど、タンポポが一番好きなんだよね。ほら、タンポポ見つけて食べているよ」、「春の若草は柔らかくておいしいよね」と、嬉しそうに語る子どもたち。また、食事の変化はうんちの変化にもつながっており、ベチャッとした状態のものから、徐々にコロコロ状態のものへと変わってきました。「あ、コロコロうんちが出た」と上がる歓声からは、ふたばちゃんの成長の一つ一つが子どもたちの喜びとなっていることを感じました。ある朝のこと、ハサミで草を細かく切っているIYさんの姿が目に入りました。私が、「Yさん丁寧に切ってご飯を作っているね。今日のメニューは何ですか」と尋ねると、Yさんは、「これは春の混ぜご飯。ふたばちゃんはまだ大きな草だと食べづらそうだから、ふたばちゃんの口の大きさに合わせて小さくしているの」と言いました。ふたばちゃんとの関わりの中で感じたことから、必要だと思うことを考えていく、自分がしたいことになっていく。同じように、「ふたばちゃん

は外に出るとすごいスピードで跳ねながら走る。走るのがすごく楽しそう。だから、もっと走り回れる大きな家を作ってあげたいな」と言って、新しい家作りの計画を始めている子たちもいました。そんな時、ふと、FUさんが、「やることたくさんあるねえ」と言いました。笑いながらトーンの高い声で言った一言。私には、「やりたいことがたくさんあるねえ」に聞こえました。やりたいことがたくさんある学校、明日もまた楽しいな学校になるように、子どもたちとの授業や時間を大事にしていきたいなと思いました。



今年の家が一番いいなあ

完成したよつばちゃん・ふたばちゃんの家を目の前にした時、Kくんが、「今年の家が一番いいなあ。2階建てっていうのは去年の方がすごかったよ。でもね、今年は無駄にしてしまう木材がほとんどなかった。曲がっちゃう釘も少なかったし、釘の無駄打ちもしなかった。だから一番いい家」と言いました。のこぎりの扱い方、金づちの持ち方や打ち込みのスピード、巻き尺や物差しを使った長さの計測、雨水が吹き込みにくい屋根板の長さや角度、出入り口の大きさに合わせた扉の作成など、今年の家づくりを思い返してみると、そういった工程の一つ一つにも子どもたちの成長や学びを感じます。また、子どもたちの頭の中では、お別れまでのカウントダウンが始まっているのだと思います。これからのくらしが、どれも最後の一回を迎えていくこと。Kくんの言葉にも、最後ということに思いを込めて向き合ってきたことが含まれているのかもしれない。私もその一回を大事にして、子どもたちと、よつばちゃん、ふたばちゃんとの時間を歩んでいきたいなと思いました。